

1. 調査報告概要表

作成日 2007年8月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4271102149
法人名	医療法人 行清会
事業所名	鎌先医院グループホーム
所在地	長崎県西彼杵郡時津町日並郷1764-7 (電話) 095-882-7511

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長崎県事務所
所在地	長崎市桜町5番3号大同生命長崎ビル8F
訪問調査日	平成19年8月20日

【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年3月16日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤 23人, 非常勤 2人, 常勤換算	24人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	6,950 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	27 名	男性	4 名	女性	23 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	8 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.7 歳	最低	75 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鎌先医院・長崎北病院・虹ヶ丘病院・鎌先歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは母体が医療機関であり、医師・看護師・介護士が連携し、日常の健康管理だけでなく、開所以来数名の利用者の看取りケアも行ってきた。理念にもある尊敬と信頼関係の構築は職員の意識の中にも根付いており接し方にも現れている。3ユニットであることやデイサービスと併設していることも利用者同士の交流やレクリエーションの機会にうまく活かされている。毎日の入浴と調理との調整など、業務をこなしながらのケアの中でいかに利用者本位の生活を送れるかについて全体が取り組んでいる姿勢が感じられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回改善課題となった感染症マニュアルについては作成し、職員の意識付けへと役立っている。職員のストレス解消についてもスーパーバイザーを招くなど、評価を受けての検討・取り組みがなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については各ユニットの管理者がアウトラインを作成し、それぞれ職員に確認しながら作成している。改善計画シートについても徐々に作成中である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>現段階ではホーム側からの情報提供(利用者やサービス、外部評価の結果、行事など)が主となっている。まだ多くの意見が出てはいないが、今後は外部評価の結果等を利用しながら意見を出してもらえよう取り組んでいくところである。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会に来る家族も多く、普段から気軽に相談できる雰囲気作りを心がけている。また年2回家族懇談会を開催し、意見・要望をくみ取る機会を設けている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>民生委員を中心に防災訓練等ホームに協力してもらっている。保育園・小中学校とも職場体験等を通じて交流の機会があり、ホームも災害時の避難場所として提供している。また、自治会や老人会に加入し、地域のお祭りや行事に参加している。</p>

2. 調査結果（詳細）

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスに移行した際に検討して地域の中で暮らすことの重要性を再確認している。理念には「地域性」明確に表現されていない。しかし、「家庭的な環境」・「自由な日常生活」という点で、その人にあった地域との関わり方を支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時研修において、理念や倫理規定について理解してもらうようにしている。各ユニットの玄関に掲示しているほか、勉強会において再確認を行い具体的なケアにつなげている。施設長や管理者も日常的に話をしており、職員にも伝わっている様子が伺える。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会に加入し、地域のお祭りや行事に参加している。また民生委員を中心に地域の方にも草刈りや防災訓練等で協力してもらっている。保育園・小中学校とも交流の機会があり、災害時の避難場所としても提供している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者がアウトラインを作成し職員に確認をしてまとめている。外部評価の結果については職員で話し合い、改善に向け取り組んでいる。また運営推進会議でも報告を行っている。	○	現在、改善計画シートを徐々に作成中である。早期に完成し、活用されることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでの運営推進会議においては、年間予定や利用者・職員の状況を報告し、ホームの理解につながってきた。まだ多くの意見のすいあげや話し合いはできていないが、評価の報告も行い意見を出してもらう機会を徐々ににつくっている。		

鯉先医院グループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を機会に連絡や相談ができる関係ができたところである。地域におけるホームの役割として介護教室を検討しており、これから働きかけていく予定である。	○	今後さらに関係づくりに努め、介護教室等実現させていただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には必ず日頃の様子を伝え、面会に来られない家族には電話や手紙でやりとりをしている。ホーム便りも作成し行事の様子などをお知らせしている。状況によっては日々の細かい様子を報告したりと、家族の要望に沿った対応をしている。金銭は立替え方式を取っており、月末に明細を明らかにして請求している。	○	母体が医療機関であることの強みを活かす為にも、受診結果等の情報内容をさらに充実させ、家族の安心感にもつながるよう検討を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも相談や意見を出してもらえるような雰囲気作りに努めており、出された案件は管理者が受け、申し送り等で職員と話し合い解決に向けて取り組んでいる。家族懇談会を半年に1回開催し意見を聞く機会をつくっている。	○	重要事項説明書に記載されている苦情窓口については、最新の情報を明示するとともに、第三者委員の設置についても検討し様々な意見や苦情を出してもらえるような体制作りが期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職の際は、できるだけ利用者へダメージを与えないように時間をかけて交代している。また毎日3ユニット集まる機会を設け顔なじみにしておくなどの工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、ホーム内では月1回、法人で2～3ヶ月に1回程度研修を行っている。また新卒者・中途採用者それぞれに合わせた計画を作成し初期研修を行っている。外部の研修にも参加できるようシフトの調整等を行うようにしている。研修後はアンケートをとり、感想や研修に関する希望等職員からの意見を出してもらっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に加入し、勉強会等に参加している。意見交換や見学会などさらなる取り組みを検討中である。	○	同業者との交流で得られる、職員の悩みの解消・知識の向上、事業所間の連携などについて再確認し、具体的に取組んでいくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があった際に、まず見学を勧めその中で希望を聞いていっている。入居後なじむまでは入居日最初に会ったスタッフをつけて本人の様子を見る。また、一週間は毎日情報を施設長、スタッフ全員が共有するしくみを取っている。 希望される場合は、体験入居も実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と目線を同じにして話すようにしており、背を向けないこと、笑顔で会話することを心がけている。利用者には着物の着付け、生活習慣、慣わし、供え物の由来などを教えてもらい共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や問いかけに対する反応をみるなどして本人の意思を汲み取るようにしている。意向が出にくい利用者の場合はまずは実践して、その結果を基に消しこみをしていく方法を取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンス記録に職員は意見を記入し、また家族懇談会で個別面談の際、家族の意見を聞いて記録している。それぞれの意見を組み入れた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは半年に一度を基本としているが、毎月1回のカンファレンスで確認をして本人に変化があった時にはすぐに対応し本人に合った計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎日、通院送迎をしている。他にはお寺参りや墓参りなど本人の希望と家族の状況に応じて、日替わりで外出係りになる職員が付き添って支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携先の病院は24時間体制でいつでも安心して受診できる。また、入居前からのかかりつけ医への送迎もしており、本人や家族が納得のいく医療支援体制を整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員間では、折に触れて理念として「最期まで」という話をしており、家族にも説明して全員がその方針を理解し、共有している。また、重度化した際についての家族の同意書も取っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの尊厳については理念にも掲げており、常に配慮するよう、勉強会時だけでなく日常的に施設長や管理者から話がなされている。個人情報についても書類関係は管理人室に保管し、他の利用者や家族の目にふれないよう徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、食事の時間や入浴の有無など一人一人のペースに合わせて生活してもらっている。レクリエーションの内容や外出なども、その人の希望や好みに沿うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日はデイサービスで調理した物を各ユニットで利用者と共に盛り付け、日曜は各ユニットで献立決めをし利用者の好みを取り入れている。料理レク・おやつレクでお好み焼きやホットケーキなどを利用者と作り、料理や食事を楽しむ機会を増やしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	平日は午前中に毎日入浴し清潔保持に努めている。入浴の有無や時間の変更も希望に沿って対応している。同性介助を行っており羞恥心にも配慮している。夕方にはレクリエーションをしながら足浴も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族にアセスメントシートを記入してもらい、本人の希望の引出しに活かしている。日常生活の中で掃除や洗濯物たたみ、生け花、食事の挨拶、レクリエーションなどで利用者が進んで役割や楽しみごとを作り出せるような場面を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	普段はホームのまわりを散歩したり、車で買い物に出かける機会を設けているほか、月1回は花見や外食などイベントを計画し外出している。ドライブに行くことも多く、事前に職員がトイレや段差等を下見するなどの配慮もなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないことを徹底しており、見守りや一緒についていくなどし、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練と消火訓練を行っており、民生委員を中心に地域の方にも協力をしてもらっている。緊急連絡網を管理人室や入口に掲示している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は利用者の状況に合わせ必要に応じて記録を取っている。水分量については各人ペットボトルを目安に把握し、声掛けをして水分不足にならないよう配慮している。また、献立については栄養士に指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は食卓テーブル・カウンター・ソファ・和室とゆったりと座れるスペースが確保されており、対面キッチンであるので職員も食事を作りながら見守ることができる。また利用者が生けた花や手作りカレンダーが飾られていたり季節感を取り入れる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や仏壇、家具等、利用者の好みのもや馴染みの物が持ち込まれ、各居室が雰囲気の違いのものである。また利用者の身体状況によって、畳や手すり、ベッド等合わせて設置・配置している。		